

学校名	清新ふたば小学校	対象学年と人数	2年生72名、4年生73名 環境整備委員会、理科委員会
活動名	ふたば小グリーン・エコプラン		
指導者	学内指導者：2学年担任（奥澤・畑・庄山）4学年担任（大矢・外池）委員会担当教諭 学外支援者：えどがわエコセンター・大和地 弘一、江戸川区子ども未来館・高木 嘉雄 公益財団法人日本環境協会 高田 直子、吉野 栄一、岡本 正義		

目標

- 自然や環境に関心をもち、生命尊重や自然愛護、地球環境を大切にする態度を育てる。
- 学校近隣の自然や、そこに生きる生き物について調べることにより、自然環境についての学習を深める。
- リサイクル活動などを通して、環境保全やリサイクルに対する意識を高める。
- 植栽活動を通して、緑化や美化の推進に対する意識を高める。

成果

- 環境教育プログラムの授業を通して、エコ活動や生きものについて学んだことで、子供たちの環境への意識を高めることができた。また、環境保全や生命尊重、自然愛護など地球環境を良くしていくために努力していくことの大切さや素晴らしさについて考えることができた。
- 委員会活動として、リサイクルやごみの分別及び地球温暖化防止についての集会を行ったり、学校応援団の方々や植栽活動を行ったりしたことで、学校全体に環境問題を提起することができた。また、学校応援団の方々とのふれあいを通して、地域の中の一人としてどうあるべきか、何ができるかを考えることもできた。今後は、環境教育をより推進していくために、年間を通して計画的に意図的に活動させていくことが課題である。

感想・課題等

- 様々な環境学習を体験的に取り組むことによって、その重要性を子供たちに再認識させることができた。環境学習は、知識の伝達に偏りがちになってしまったり、学んだ実感が得られにくかったりするなど、学習動機も薄い場合が多い。しかし、エコセンターの方々や来校し、子供の実態と学びのニーズに合わせながら、様々な教材を用いて、体験的に授業をしてくださったことで、子供たちが課題意識をもちながら、最後まで主体的に学習活動に取り組むことができた。児童にとっても、学んだことをこれからの生活で活かしていくためのいい学習の場となり、貴重な機会をいただけてありがたかった。教科との関連も図られ、有意義な学習となった。
- 学校内の身近な生きものを題材にし、自ら探して観察することで、自然についての興味関心が非常に高まった。自然愛護や環境共生について、自分の生活から考えることができた。プログラム実践が学校公開日であったので、保護者の方々からも、学習したことを家族に伝えていたなど、好意的な感想が多く寄せられた。